俳風柳多留 廿六編

廿六編ヨリ
四編まで

へ9
909
1

宮城県図書館蔵書

門へ 9特
909
巻 1

9
909
1-2

ひとのしるべの句疑問を撰ぶに若若
百句合小冊と時に享保の比収録
て出版せし句合のおのしらと撰
しらり江府知られ組とされと
特に毎年出版せし方の句員と集め合小
冊の余風残りぬ宮小宮居のそしめ
浅草彩鳥流の考士川俊方句合数し
ものうらの元禄小高世のそしいと記
しき句合と称年やしふ或ばそ万

求たる武万の句のいまだ筆はかせさ
ぬしゝやうゝ姫ゝやいんすんくゝ玄蘇
早蕨堂のゆゝ湖柳橋のゆゝ姫と廊陳
二廊三廊と好りむゝ四廊といふる事を
もしよふ法うを名なの隔板紙と拾ひ集
二二の廊しゝ好りゆゝ和尚もも
墨状を長浦下境呂陵新述

ちゝ迎ひと廊ゝの先きゝしゝくゝ号
奥のちん本法ゝそのさゝ見ちゝ見ゝ
ゝ本神ゝゝよゝゝゝの池ゝ中ゝ四
ゝゝ名仏ゝ好ゝ名ゝたんゝ引ゝゝ
世湯ゝゝゝゝたゝゝゝゝだいて集
りゝゝゝ庭ゝゝゝ小ゝゝ波たゝ
枝末屋さゝゝゝゝゝとゝゝ
おせの矣ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
平産のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

九の門井戸へ、あらしてもひも
こくしめの底と、ふのも安大事
出来ぬ、何おうしろいかくしひ
そだがらを、初こ海の付くゆくこの
義兵ぐしんへ、ふらくびをとお
数人のこくやけ、ごろくて豊
そんこんはふらびそけ、会
このつさかきおもそぶへ、
かもしひやとそんえきとそこらも

こやう十のくしかやの見の新と、
茶つこれ茶屋のひすふとかへ、
初がこくいはれの死こうこれ、
屋どとはくやふらをは用たくこ
世房とのこんで、ふすきん物
おやくしいは井戸と商へぐひこと
飯そだこうこ、ふ落ものかこいつを
表そこけ小一きはじおりこ
かる掛こもぶこちやぐ名とこ

てんぢく世話ふへ新とをぢやうら
大坂へ入るさいはせいく出てくる
鉄くはいとうとうの屋のもんかるの
屋とり嵯はせげふかくやうこいし
八文の事ぐ大ぜく新を見せ
いぐれ者かの○にいをは見せとろ
海ちんちるこい赤かうその内き酒
下世ちうれちんとうと芸八文
手花とうれを屋くやうもし

小侍世ちの中ぐ屋をかさ
うりものとを下世ちを世事ぐうる
ちうぐうちの声ぐ屋自ちける
紫長飯ちく紙ちの出るとろ
ちうを西ちう見えかっく海とつぐえ
ぐうきひのうちうこい者つうこ交通ち
ぐ表らうちを代も一人り前新ケ
御ちうのをとをいとりかちう海部
中西り流を見ちは世ちり

[illegible]
[illegible]
[illegible]

浦辺をやうの遠ひふ海のえんりょ
白帆をしすいうらだかそうしい
一式書庵婦もうとをおそく思る
おそぐろの龍てだうけてだとしよ
沙庵こ寺庵くおくるこのぶずを
こ門ハ毛ゆと竜ぐそそひのけ
庵のかハうごくておさるの
夏しひ流人大ハしくいこ
毎おかけるのがゆのかくもも

切ふてこいつきひのんてかさかを
ぼうとそうそぼごこ流す程はのごう
ちぐりふハけるぐくいこやそひ
ちんぐくち呂和とそんもんらし
桐杪うとろんかもちを渡てを
三人で下せそうく庵と出ば
お月見をていを西ふすを九メこ
師匠ま月一う称ふりす称ふ色し
図こそひワけ祝の見せを出し

ふり袖ぐるぐるしれる世界さま者
中まり初ふり美ぶき所のやう
十二月人をさうろふ日をおぼく
さえ秀いふりぬえんぬえんよ
下茶ワてらしとてられる御ぐし
ぶぜの仕ぶのとらふ仕ふかぶ仕のセ
見えらしてしやぐぐ者を者でさ
ヒつとそぐてさえやえいりとし
美さだの艶ハ色仕ふしぶし

ほと筆くとさんぐくらぶ乳母ぶ者
きひてて海さと下世くいるごい
ワさしまぐりん見えの仕ハ武反 喫
ひ始しぬ仕ら元のく 年
根津のち四海の主居稼ぐぐ者
秋葉ぐけ湯屋ハ日先ハくら
時天しく仕合ワらく馬士の 義
たうのぐ筆てくちんとさげて所
義者の名ん海ふらるを性しる

仙台のいづれハの海を
うり網一ハのめしてせへさし
至ってうとめうをかのいるかを
ハ年のぼせ毋をあつまりさきの
ハかをもお海ゝ貝を海をさ
中納をいうれの海ハ
恵源をハ丁上ゝゝとち
ゆいけもゝゝ文集てハ数をいれる
ホリハうしうゝ島の声

雪らんとかぐらかんぐるへを学ゝ
ハ極の事ハ海辺をゝ集ゝ
ハのかさんかゝゝさつくすれるの
大て長浦を大ゝるのふをとおぐへ
楠ふせゝへうへふすら変らう
物ゝゝそむかる光の春をすち
月代と利ゝてゝ事をゝ
おそらへの沈多ゝ教ゝ之の糸
北原んせんをゝ会ぐゝゝ

[illegible]茶屋の[illegible]ものいきつかれて
[illegible]ここらを見廻へ[illegible]ワ[illegible]が初れ
[illegible]ごくとさ[illegible]ぐらの[illegible]を[illegible]
[illegible]の[illegible]で結[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]ば[illegible]現[illegible]の[illegible]
[illegible]ん[illegible]ハ[illegible]と[illegible]
[illegible]ふ[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]の湯はんの角に[illegible]
十三[illegible]十[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]の年[illegible]
[illegible]
[illegible]おいの[illegible]代[illegible]
世[illegible]方ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
封[illegible]紙[illegible]
[illegible]
小[illegible]

[illegible]
大[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
大[illegible]
京[illegible]
[illegible]
[illegible]

おぼしめしこそ涙一ツやう
ゆえハ夏ハ
かくるゝ毋ひとへ下ハ
のひとへがいろ
ハ
ぜの今ハ
中宿ハ
ぶり出ス大
ゆへせいと乳母
ハ事

かりそめ部ハ
ふり袖ぐ
おとこ事てゐる
さも侍のかい
て親が
ゆるゝ
一の糸
ゆ毒ハ

ゐなかうたの演ぶ　あまたの二ぢ笑
舞のかたち　老〻世房の出　相つき
御人しすこ　ちゃんとうたんする
出袋のやうぶ　かげでちちをつま
後家の仕ぶりで　四すれて酒とのも
中の四すくさの　りくちんとうた
うた　一赤と　主〻　まつさわをとうさ
さい美ぐ　老〻　くとしふ　唐子屋
書を所　ちっも　男と　唐ぶは

切見世の　四ぶ　ぶりぶりうん
りうぶ　のかさ　ぬもふ　ざこ
ぶくさ　かしとは　下くの　云葉く
主ぶ　ぶ形と　奥へ　けれて　り
ここせん　屋大世　い高と　ぶ高山
高下り　今後も　食とす　くぐて
湯呑と　見ぶで　ぶぐさの　ぶんぶやこ
世おや　のいうん　おぶひが　いしおさめ
ぶ山と　中高こ　ぶ一　四すぶ　主

へおとゝはんくはくかなの礼
国しハ　もゝのうのとくはく母ら
ものゝふんぶ化らの出るとゝん厳
はれさしハ世のやぶれかゝまらり
八百のお後おくる二男ゝり
夢命ハらいぶ百ぐゝらうゝり
美号おはゝもゝはるものとゝふゝこゝれ
源氏ゝるゝ人とゝゝはゝしがり
天ハも男もらいがきたるゝる

百九郎ゝうゝが百ゝゝゝゝゝ
世代ゝゝはゝゝぐゝ小母ゝゝはゝくく
入ひこの住合ゝゝゝ廊ゝいも
角田川住ゝがゝゝゝゝゝゝゝゝし
引にゝとゝゝでゝくゝゝゝゝゝの
ゝいゝゝゝゝ人とたのゝぐゝゝぶゝ
ゝくゝ四ゝゝ母ゝゝゝゝゝゝゝゝり
ゝゝゝゝゝ一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
死ゝゝ山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

雑喜ヶ嶽と七条ヶ嶽とを
敵やすらいつゝ
彩色のひるん茶の
くそとそやしは西に
神楽堂と西ひ
湯殿山と
所にあつ
乳母田さ
入れハ一つ

きんぞくの嵐とたいて
四会乳母ぢんの
大縄くるとなんの
山茶さくハ
大神宮のたハ
大くぢうん
乞中ハ
琴の所ハ
お盛ぶ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

家うけ〳〵ひとの田地を入せて切
帰宅さしたしといふ別り金
高〳〵ばし居ぶ〳〵銀をおつて切
与かでのそ〳〵しく乾屋はどりする
小ちゐやあめ〳〵しく性〳〵ひきて金
下山が見はしの部屋のぞ〳〵ところ
金時がりきそ〳〵かふ下ら〳〵門
ぞ〳〵〳〵〳〵〳〵ざるそんへのおひ事
教ふ死ぬ〳〵おり指新かく

吉稗る雑小ふちんかりられる
小ぎ〳〵ゐ売ハ野〳〵ふ〳〵きる
あ屋る〳〵ゐ〳〵ひすゐの沙ざんへを
あや〳〵しの田ろしで出〳〵こそと
雑店ぐ〳〵沈見〳〵切ぬちげこする
ま〳〵とつあやふ〳〵お汁〳〵ゐ〳〵ときも
や〳〵粒のや〳〵〳〵池を鬼〳〵ひ市
ゆ〳〵後ふ〳〵〳〵ゐ房をさ〳〵ふる〳〵
さぶぶん〳〵ゐ世ぶ〳〵お立〳〵ぬひこ切

いくたびかこゝにいたりしに
春とはいへどいまだ
さゝぬのはなのみなるとぞ
かのうらとこゝにもかぜ
こかんをむかへすぐ過り
村の姫乃陸神へ祈とりけ
こすひのうき根津のいりけ
酒さかんをおくるまつさきとのゝ
右近はがはし

海の色もあらい船のゆらぬあれ
中を過り元の海岸へ立かゝる
ちかてをひどこゝにもとゞろ
高い山へ引きはなれ高う聞の音
すさをぶハぶしうゆをぐけんをする
ふもと中ふすゝ次ゝにとゞれ
世の詩に奇しうふるむしし
絶壁ハはがいやさか梅ざもしい
海げのゝ所ゝかゞゝのふとゝ

[illegible]んめ〳〵ハ道ゝじの所ゟ[illegible]
下馬先〳〵ゟ[illegible]
上下とゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
侍のさゝぬ所が今ハ[illegible]
源氏方ゟ[illegible]
四のすゝぬ家の[illegible]
二ツ三ツ[illegible]

[illegible]
[illegible]
第四ゟ[illegible]
せめ[illegible]
舟ゟ[illegible]
[illegible]
[illegible]づゝとゝ[illegible]
[illegible]
仲人の[illegible]

年ゐのきさらぎ十八日あるじ
よくの記をてはきらんぐでこが
新宅の家もはやうしあらてる
ちうしん坊はきのうちもあるづうり
郎子賣辭ゐ〳〵こゝろとひ
能へするこゝろじおやぢはこゝぬぐん
ゝ四でゆきうん書好しいふ
ゐもこゝと毋右うるめ〳〵ある
作ゐきふ能とまゐはうるこゞう

に大とすへ一下大〳〵ゝゝたついりや
意ひこの先ゐ〳〵ゝゝ味うゝ
四門〳〵古と出し〳〵蛭の体
ゐ多ゐ海さゝ海の中〳〵出し
神の梅のんぐ上品の海て春
白かゐ芋命ゝ活はいゝ見ば
傘とさゝれ明はゝの活い
ぷゐゝ四義のていさちざよ
家合はゝゐ人と行て居ら

城の下世おさ門たてしたのしまは
四ちの方の石垣下世おさ
めしえの中ちやしおうびまるが
馬ちの毒どどちる紅色しき
おがはく浜ん庭坪おこれる
ちんちゝが苗ちへかちる砂あら
大こくやいやぶゝさくゝ水
元さんちゝはどゝハ火と芸ひ
かの浜おぶ事ゝがゝさの毒でふ

ひさし坊ちゝはあうを引ちゝし
ちちやゝゝ元ひへどを浜ぶぶる
おやぶんハ元しひのとかはよう
りちんしゝ事ぶハ初雪のかひどく
ちゝはりちの毒ハ下ゝてゝ
ぶんこぶゝ一流を食かちゝ出し
ちゝ平月は京れおいふゝちぬく
大和奈をおやぶちて日ちて毒い
せつでうちちゝ巳切ちゝ出ら

御示談へ参りましたのかけて金
大無しと売引ゆるんしひ
浪家の義にてくくでおま年
紙屋のくれるのいるかのっさの
辻書でくらかと言うのか　浪姫
ちゃ中間あおそやうがすつごく
くやくよしゑ中い紙屋屋ちすず
岩治りハ年とちゃくくおしち
古ひ見の浦ム間　室へまと言う

旅ちくをおりんのぞいくく門へ来
もくくくほぐむ男邪で紙とも
舟使じすると　とすふ浦ちさ出し
命日ふ元ちの村とちはめ
年ふしふ十二の売ちくまほ
和もふせと出せたいちいかさの
浦ち書へひちと変いそうしん
用かられくかへ浦くどくが頼く
文きもくじくしても姫浦や浦ず

りてぬまをとおもふ　おなじく
　　　

居てあのびいいさまいいさまいと世度く
乗せすら、乗せやうと言せなば
十ぢん物見て居る新と仰せ言
宮中と数しらず御ゆく事
家様へさてふかつの人くらし
うさぐさこの大がいとしてやさしく世相
かくなかりしうちとも姫初てそしも
こゝちんの糸の切さが結ぶ心地
すさまじうさんの出とそなる

さひとはちとおと世相ちえりんえの
は勅使と大神さまの馬土をとも
年始ぐハなんがらえ家ふ立の海
とうがしかいふかとれえうち
角田川とかくしおやの海ふふ
宿ふ身くおちとと世房とれてう
茅のめしとさやとこと法くて居る
亡人ふ切とでまれなるえばりんん
石見山とハちの日ふ死さまばば

[illegible]
今世はそれとむかしまさるちんがく寺
合点せぬや切丸と無沢法師や行
大嘉かぜぢんの見へる事のごとく
思ひもよらぬ事なく無いふ
大さんぬきこ一角くいまるふでぢ
特人ぶきこつ○神とぐぢるかり
世神ぐけどこつも前方とぬき
こつたやのこぐらいこをいつき

ぶきこをこつ世ぬふ
つび事もおちるのするぬぬとが
言名どしくおぬれるおれも
形の舞下世ぬの切しの中つけ
文せハ男もよのいがくそをつき
事ぐこまこ下世をいやとかぬきち
ぬくくぬ川なの海ちぬのこを所
四会をの何とやしもぬこふする
ふぬ一つをぬ一屋を見つう色

うゑ出なるおもへ　柳ぞうりをはき
庵ごいやりけるかくさぶごとく
大ぜいぞろぞろぼうぼうとうち生えるる
ちいちんでゑ絵さごとすぶ世
おーー屋へはいるとれるれるこんとを
さんめらじをんからきもこを男
池をぬけかた大声をとてそ
風呂しきをとくけれれる学れ
鉄のびび通り沿いて下世すりと

美命小売賣ゝゝえのごうり
せきお桑先ゝゝけてゝ蒲団
八文はいそと片ゝゝへうけてのこ
かゝゝゝひの称じけてつもばのなが
美言ゆかゝゝさを和尚買う乳く
引ケまゝ小高見ゝゝ茶もきいごう合
ゝ屋の美男おさへの声がかを
朱筆で見るがぬるのこやこゝ
おゝゝも一ゝ蔵をはうとゝ

他人ゆゑぬちのくぶつ
ぶてくくゝゝ引とくく男
絵つくへえ世へむすめのてをかくり
云り帰とえ門ゝ門ゝが三ツ小手
出を屋ゝ門ゝハ下地みゝゝすの
出家ゝんが母しゝがゐる花ゝ山
ワゞ門かめゝうけて花ゝのつゝの
ゝひゝられくゝゝゝらるゝらハかるゝ
什弟と作ゝをでゝさゞすかゞりる

之の糸ゝ川ゝゝり切る声のゝさ
ゝの数をさゝへゝのゝゝる之せ相
ゝゝんを先ゝ手のがゝさゝまゝ山
地ゝくくゝゝゝくくゝゝゝゝゝゝ
ゝゝん居る門前岩の嵐の引ゝのく
くくゝ出くくゝゝゝゝゝの尻ハおざゝゝ
ゝゝ出ゝハ尻ゝが之ゝくくゝゝゝ
ゝとゝりやす門ハゝゝゝまのやくでゝ
年始始弟ゝとゝゝふのくゝゝく

あの一しもゝいらいらくんのおぐるみく
ゆうてゝいるもぐゝ娘ふるゝもぐず
あゝゝらのるすでおれのお洲さま
おゝゝ所位のけもとれはけもとり
もて帰り洗ぐ薬でも老ゝ元く
切し小判ゝ色のちゝできひすて
世房いゝしゝゝでゆいてくゝゆる
頼りけ小屋ゝゝすぐれのれでも
和歌ゝゝ流ゝゝ所ゝゝよ和久く

ゝゝのとゝけくんとゝいたゝる
部ゝくゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

紫屋敷京のことばしい今とうり
ちゆうてちりはく間が嫁ようり
世間ちこ衆でおんうけおんあ
ずらでいよ者ぎぐらかさめられ
仕舞へ妻の用のうの多さ
いの記母ら書でおうしいてこがな
毎屋でこうことはぶらいうさ
時家が二変同の去かい屋ちかき
うれでやセこきりもの家のやう

玄関番ちえ人のもく使者とよ
うこ屋ことをくが子持く
清妻が何とはぶうちうこ
家屋ちとうでうけとうち
ちくの中の白かべちち屋ちり
ちもちんかぶ星子とうすあしさ
言とうこ見こが間家の紙及く
かうこちを種こ和白い家やすこ
傷心の気かつるおやぢセこさ奏うり

ちらちらのみゆるかすかなる西の空
園寺の月もうすのくもりそめうらけく
はる玄関と淋しくいでるが町醫さ
奏すべる売の奥と思ふかこのうり
かんのまいごゼ泳くらい事こでのさび
うはさてどふも好ゆく離とは
望ゆへとうとうゆくりへ去るがこひし
だいめくくこを見の泊りのんで居れ
はるんとうけ陽くくつうよ自

ふるさがくとゆんでいたどくハ出さそ
そのくもこさ寝とのこの花ハ蕾ぶ泊さ
我拍さ紙布の紙でメられる
見うだりくこ世房ひりくふいけぬく
るべぶくこ下切のセるセーらさ
きぬくとの墓と地蔵のワさへこ
いもくとくりくこんだくどくつこを
かくいはでていを西の美花とひこる
初賀くニこ家ワセさ妹のあや

入をとるからげさせて夜食等
いたやひのかおとさげんで先きへ
屋ざいもかのうをてハ宵ぶのめぬく
やうこかゝのもからぬ物をこれ
ゆうを命かゝ別条ハこゝり
ゆゑ水おかしのやゝかつけてやり
屋つらさぬ人へうさでいとゝれてやを
国をふさぐまとをくかゝおてあ
古場ををはゝうかゝひこゝか

料理人等の屋敷ハらけを出し
をんぞうれおやじを村の者たあを
時を義ゝもし の屋をはゝ上
新関を用ゝちかるをなん牛
十二月をゝ先ゝゝを渉ぬく
穀入をくされをぬいて新ゝく
用むゝ物をはして居るを用ゝ
ぼゝをゝちを絵へかゝて物作
おやぶんの世話かゝら仕ハ迷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]のゑしやうひの馬をひかせ
給ふて世話で紙帋をもつて
仲源へ又ゑやしさハえやきさの
あや様ぐさうしかくハらく一人さん
ゝつれぐでたいこハ元吾妻
中者へ行ぐ[illegible]
鮮の[illegible]合海[illegible]紙帋ぬし
姫のうしや姑のしんぞ一つえん
おれまゝ男ゝごゑとゝゝく

ふりけ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
上下の音[illegible]
雑[illegible]
[illegible]れと[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふまつらしらうしたのもの
琴笛のはきはとえうや學問と
世間と大切にする見えてさ
庄屋とゆるゆるしたかをを
法花經へ銘のあるいさ川
特人のむこと忘ひもうけもの
大門をうちこしに入かゝり
ゆらゆらゆくと上下ゞかゝる屋敷
くさいけうこ者に呼る事男

神うつは因幡ゆ取て有
若ひふかつ新二りこう
ゝゝゝんかゆうさひに指数をする
引ずるのくせかおいハ屋ゝうり
ゆうゝんハ手の賣人がもぶらさ
ゆうさげてゆきおくゝゝ家
仲人のにぶりハ沒ゝけしゝ
物ゞへの者ゆやゝゝかゝつうに
ゆゝりかゆさよと切ゝ他人く

京のかゝとのひけるハ七月でゝゝ
馬士の名を呼ふのを通し馬と知れ
ゝゝの源英ハひすめ元ゝやゝく
ものそうか元さくゝとをせいごゝ
級角ゝていまの色がゝいゝゝゝ
初商ゝ酒ゝくゝを名かもおるがつゝ
四日国ハ元今ゝゝ色る日ゝゝ
山ゝハ名ってやるがゝるん形り
新鉢ゝゝけ沢ゝハ大きゝ

沢のかゝとゝけてゝゝい遊ゝ形
一家中ゝ名ゝの形ハ沢ゝ山
ゝゝ元で見るのが馬の山房ゝ
屋ゝ山ゝゝゝゝゝと売遊ゝ
紫ゝ石のゝゝ母も居ゝ　廿
ゝのゝりで酒ゝりをする山殿山
見のゝハ家がゝりんゝかゝい浜家
神酒ゝゝ拾ゝゝ大屋ゝんゝゝう
一ゝゝゝゝゝ使ゝ書ゝ沢ゝ

そこかおとこ
をこ屋へかけこみて居る世ごろぐ
彩酒屋こやしぐる事ハいとぬけり
二つ三つ引こ大ろと精出へ入
やはひすたれのお迷をへ見
表ゆしこ書こ元のまへ立ける
時宿のこみ所有ハ所ひ
さこめの事こ入ハ姿ハ世ぐ
ふり祇のりしげそこか湯へ母の声

おやぶんハ千濃茶を呑こ男
紙こ所ろ所へ片方ハ
時手ハ時ぐ時ぶらんしハ
ぶら時手ハ時やこ手ハ
おさ時こぬ事ぐ見せぐ姿の事
りぐ引こ所ぐ時ぐ
事氏の場ハ所ぐ
ハうこ祇こ見ぐ通ろ事で
表人ハ如ぐこがさんぐ事の事さ

くぐつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

代やくハやん四と遊さ小僧く
巻ぞくふかのけこく世庵も心地茶
はを脱ぎ〳〵こ茶屋右かぶり峰り
四つの星へかくるは乳母ハ泣んが泣れ
袖とんくくるを絞てんくりかぶりく
横白しはうんて出るく杖とし
世ハこやくうんくあぐさじかぶん
はぐるくれこと社とこれく見セ
前くくを時く高ゆやくくを四節者

白るくりくくさぐ生る振津の星
世庵ふとひくでけつて先きりを
結ちりくを出して家く寄る
祇月小帆とそくやくくかされる
図しく地ごくハこと実とひ
茶碗の使云ふ新風くりを生る
生辞ハ七嘉ふりれさくうくと
すれくふくの八兵見の幕どくり
どいつぶく麻上下でおんて寄

地にうゑそらの姫とゝさげ
ものこゝろん事のゞかけこゝろとき
はは過けんぐすさ屋へ
ちんぐくるゝと参詣へ行きて
大一座先陳すでに姫へつき
はゝ母ゝとゝゝくるくふ敵ゝら
病人も新と出さるゝ恵仕舞
かゝて参ゝ先ゝくゝ年二は
根とゝして行ゞ姫ハ浅中

くゝを出る所にすれすれつゝ面
おふちやくゝ見ると紙の鉢
取違ハ扨茶の事で二日集
赤がいるおせいかするゝかゝを初
先殿の代ハ屋へもゝくゝされす
きいこ新もむしくゝ法師の矢
黒一毛をぬいくゝ姫の紙なりり
はへくゝをいてくゝるゞくゝさる面
業もこゝせ一高ゝ出のゝ

大一寺かさぐりしをひ
玄関ぐちらひとさせる比うぎん
ぢをとちん〳〵舞ぐちりて
ぢをまつ〳〵酒けちく注へ樽をさし
ゆく〳〵い鬢小ぢかくたりと見て美
ぢをのこ鬢ぶまぢりおりらぐり
四ぶく〳〵ゆく中の信右ぢり
おぢんぢさ〳〵樽役をきひ〳〵ぢる
高多八ぢ〳〵ん酒ぢの酒ぢ〳〵

旧
へ利9
1147
26